

オムロン「AWS Summit Japan 2026」講演に関する調査 報告

ー 知財 AI エージェント「ALBERT」と研究開発向け AI 基盤「RD Buddy」の内製事例 ー

調査日：2026 年 9 月 2 日

Claude Fable 5.1

凡例：本報告では、一次ソース等で確認できた事項を【確認済み事実】、報道・二次資料に基づく事項を【報道ベース】、筆者の分析・推測を【推測・分析】として区別する。文中の上付き番号は、文末「参考文献」の番号に対応する。

1. 要旨

(1) 前提の検証結果。オムロンは 2026 年 6 月 26 日、AWS Summit Japan 2026（2026 年 6 月 25～26 日、幕張メッセ）において、自社で内製した AI エージェントおよび AI 基盤について講演した^{1,2}。ただし「講演」の実体は 2 系統に分かれる。すなわち、(A) オムロン株式会社（本体）による知財 AI エージェント「ALBERT」のお客様事例展示（製造業向けエリアでの登壇解説）²と、(B) 研究開発子会社オムロン サイニックエックス（OSX）によるスペシャルセッション登壇（Amazon Bedrock AgentCore を活用した研究開発向け AI エージェント）^{7,8,9}である。両者を混同しないことが重要である。

(2) 中核内容。本体の事例は、特許庁公開データを Amazon S3 に蓄積し、Amazon OpenSearch Serverless と Amazon Bedrock（埋め込み：Amazon Titan Text Embeddings V2、生成：Claude 3.5 Sonnet）で検索・分析する RAG 構成を、研究開発特化の生成 AI 基盤「RD Buddy」（AWS 上のプライベート環境「RDinX」）上にスクラッチで内製したものである⁶。

(3) 効果数値の出所差。日経クロステックは登壇者の発言として「先行技術調査と発明説明書作成の工数を少なく見積もっても 50%削減」と報じ¹、AWS 公式ブログは「特許調査・発明説明書作成の工数を 90%削減」と記載する²。数値を引用する際は出所の明示が必要である。

2. 前提の検証：イベントと登壇の事実確認

2.1 開催概要【確認済み事実】

- AWS Summit Japan 2026 は、2026 年 6 月 25 日（木）・26 日（金）の 2 日間、幕張メッセで開催された^{3,4}。
- 日経クロステックによれば、イベントカタログ上の 167 のブレイクアウトセッションのうち約半数にあたる 83 セッションが AI エージェント関連であった⁵。
- 来場者数は Day1 で 22,000 名超、Day2 で 20,000 名超、Executive Forum を含め延べ 43,000 名超とされる（AWS 公式の開催報告に基づく数値であるが、当該ページの URL は本調査で未取得のため未検証）。

2.2 オムロン本体の登壇【確認済み事実】

- 日経クロステックは「オムロンは 2026 年 6 月 26 日の AWS Summit で、自社開発した AI エージェントと AI 基盤について講演した」と明記している¹。
- AWS 公式の製造業向け展示紹介ブログは、Hall 7「AWS Industries Zone」内の「お客様事例展示」として、演題「生成 AI を活用した知財 AI エージェント『ALBERT』の内製開発」を告知している²。
- 【推測・分析】以上から、当該「講演」の実体は基調講演や番号付きブレイクアウトセッションではなく、製造業向け展示エリアにおける事例登壇解説である可能性が高い。正式なセッション名・ID は未確認である。

2.3 登壇者【確認済み事実】

- 登壇者は津田学氏である。日経クロステックは「オムロン ストラテジック R&D 本部デジタルソリューションセンタ 津田学デジタルプラットフォーム部長」と表記し¹、AWS builders.flash の著者プロフィールは「オムロン株式会社 技術・知財本部 デジタルソリューションセンタ デジタルプラットフォーム部 部長」と表記する⁶。本部名に差異があるが（組織改称または表記揺れの可能性）、センタ名・部名・役職は一致する。
- builders.flash 記事の共同著者は、熊巳創氏（技術・知財本部 知的財産センタ 知財専門職）および日下武紀氏（オムロン デジタル株式会社 コア技術センタ）である⁶。

2.4 オムロン サイニックスの登壇【報道ベース】

- ・ 2 日目（6 月 26 日）のスペシャルセッション「AI エージェントが変える企業の未来 —— 構築から運用まで、ビルダーと創る自律型 AI の実践」に、Anthropic Japan、オムロン サイニックス、ファナック、サイバーエージェント、日本取引所グループ等が登壇した^{7,8,9,10}。
- ・ OSX は、研究開発における仮説立案・実験計画・分析を Amazon Bedrock AgentCore ベースの AI エージェントで支援し、将来的にフィジカル AI ロボットへ拡張する構想を紹介した^{7,8}。

3. 知財 AI エージェント「ALBERT」の内容

3.1 目的と適用領域【確認済み事実】

- ・ 目的は、先行技術調査・特許分析・発明説明書作成といった特許業務の高度化・効率化である^{1,6}。主な利用者は研究開発部門の R&D エンジニアである⁶。
- ・ オムロンは発明考案プロセスを、(1) 発明の創出、(2) 自社の発明と似た既存技術がないかを調べる先行技術調査、(3) 発明の中身を知財部門に伝える発明説明書の作成、の 3 段階に整理し、AI エージェントで (2)(3) を支援する¹。

3.2 AI 基盤「RD Buddy」【確認済み事実】

- ・ 研究開発に特化した生成 AI 活用環境基盤「RD Buddy」を、AWS 上のオムロン専用プライベートクラウド環境「RDinX」上に、サーバーレスアーキテクチャで構築している⁶。
- ・ 生成 AI モデルの提供には、Amazon Bedrock および Microsoft Azure OpenAI Service を専用リソースとして用意している^{6,11}。

3.3 アーキテクチャ【確認済み事実】

表 1 知財 AI エージェントの主要構成（出典：⁶、登壇者発言は¹）

構成要素	採用サービス・技術	役割・備考
データ蓄積	Amazon S3	特許庁公開データを格納。「ハードディスクを特許庁に送り全データの格納を依頼」との登壇者発言 ¹

構成要素	採用サービス・技術	役割・備考
前処理	AWS Lambda（S3 イベント通知で起動）	特許 XML の構造化
メタデータ管理	Amazon DynamoDB	書誌情報等の管理
検索	Amazon OpenSearch Serverless	ベクトル検索
埋め込み	Amazon Bedrock（Amazon Titan Text Embeddings V2）	文書のベクトル化
生成	Amazon Bedrock（Claude 3.5 Sonnet）	入力情報全体をフラットに処理できる点を評価して採用
監査・運用	AWS CloudTrail、CloudWatch Logs、Athena、X-Ray	利用状況の監査・コスト可視化
接続・認可	AWS Direct Connect、IAM（最小権限）	閉域接続とアクセス制御

- ・【推測・分析】特許データを外部 SaaS に預けず自社の S3 に取り込む設計は、機密性の高い知財情報のデータ主権を確保するガバナンス設計として位置づけられる。

3.4 内製を選択した理由【確認済み事実】

- ・ 社外の商用データベースや SaaS も検討したが、取得可能なデータ量の制約と社内独自プロセスの多さから自社開発を選択した¹。エージェントはスクラッチで開発されている⁶。

3.5 効果と今後の展開

表 2 工数削減効果の出所別整理

出典	削減率	対象業務	数値の性格
日経クロステック ¹	少なくとも見積もっても 50%削減	先行技術調査＋発明説明書作成	登壇者発言。2026 年 1 月頃からのエンジニア実利用ベース
AWS 公式ブログ ²	90%削減	特許調査＋発明説明書作成	展示告知ブログ上の記載

- ・【推測・分析】両者の対象業務はほぼ同一である。50%は現場実績に基づく保守的な値、90%は展示告知上の成果値と解するのが妥当であり、引用時には出所を明示すべきである。

- 今後の展開【確認済み事実】：R&D 部門での利用者拡大（60 名から 120 名へ）を経て全社展開を視野に入れる。技術論文・経営情報など特許以外の情報との連携、機械学習による予測分析の強化を計画している⁶。

4. 背景：オムロンの生成 AI 戦略【報道ベース】

4.1 三層構造

- 全社推進（AIZAQ）：2023 年に立ち上げた全社横断の生成 AI 活用推進プロジェクト。社員の自発参加型で、オムロン公式によれば 2024 年 4 月に始動したシーズン 2 では 25 のテーマが立ち上がり、有志 253 名が参加した¹²。ガイドライン・FAQ の整備、AI ガバナンス委員会の設置、プロンプト集「AIZAQ Canvas」の運用が報じられている^{11,12}。
- 研究開発基盤（RD Buddy）：情報漏洩とコストを主要課題として、研究開発プロセスに特化した独自の生成 AI 基盤を構築。プライベートモードやコンテンツフィルタ等の多層セキュリティを備える^{6,11}。
- 業務アプリケーション（ALBERT）：RD Buddy 上で稼働する知財 AI エージェント。OMRON TECHNICS 169 号（2025 年 5 月）の論文「研究開発プロセスのデジタルトランスフォーメーション」（津田学ほか）でも研究開発 DX 基盤として言及されている¹³。
- 【推測・分析】「全社推進 → 専用基盤 → 業務特化エージェント」という段階的な三層構造が、知財 AI エージェントを短期間で実運用に載せた組織的要因と考えられる。

4.2 長期ビジョン等との関係

- 長期ビジョン「Shaping the Future 2030（SF2030）」（2022 年度～）は、「カーボンニュートラルの実現」「デジタル化社会の実現」「健康寿命の延伸」の 3 つの社会的課題を掲げ、コア技術を「センシング&コントロール+Think」と位置づける¹⁴。
- 制御機器領域では、本件とは別に、Laboro.AI の支援を受けて「PLC 向け設計コード生成 AI」（自然言語から ST 言語コードを生成し、RAG によりリファレンス探索を自動化）を開発し、2025 年 11 月の IIFES 2025 で公開している^{15,16}。

5. 同イベントにおける他社事例との比較【報道ベース】

- ファナック：スペシャルセッションでフィジカル AI を主題に登壇。安部健一郎常務執行役員（ロボット研究開発統括本部長）が、既存の約 250 機種のロボットすべてをフィジカル AI に対応させるとする現場主義の開発思想を語った¹⁷。
- i Smart Technologies：製造業お客様事例展示。IoT で収集した生産性データを Amazon Bedrock で解析し、製造部長のように分かりやすい言葉で現場スタッフに通知する「AI 製造部長」（ルールベースとのハイブリッド設計）を紹介。データ解析時間を 70%削減したとされる²。
- デジタル庁：政府生成 AI 基盤「源内（ゲンナイ）」（Amazon Bedrock + AgentCore 構成）を紹介した^{7,9}。
- 会場外の動向：ダイキン工業と日立製作所の設備故障診断 AI エージェントは、2025 年 4 月に堺製作所臨海工場で試験運用を開始し、事前実証では 10 秒以内・90%以上の精度で故障原因と対策を回答したとされる¹⁸。
- 【推測・分析】オムロン（知財）、i Smart Technologies（生産管理）、ファナック（ロボット制御）は、いずれも汎用チャットボットではなく特定業務プロセスに深く組み込んだエージェント設計である点で共通し、製造業の AI 活用が実装・運用段階に入ったことを示している⁷。

6. 知財・産業政策の観点からの示唆【推測・分析】

- 知財業務のエージェント化：本事例は、先行技術調査と発明説明書作成という知財創出プロセスの上流工程を AI エージェントで直接支援する先進例であり、知財部門の業務設計（発明発掘・発明提案書作成の分業構造）そのものを変える可能性がある。
- 内製の合理性：製造業が AI エージェントを内製する動きは、(1) 機密データ主権の確保、(2) 社内独自ワークフローへの最適化、(3) コスト最適化、の 3 点で説明できる。オムロンの場合、特許庁全データの自社取り込みと社内プロセスへの適合が決定要因であった¹。
- 知財部門の二重の位置づけ：知財部門は AI エージェントの「利用・開発対象」であると同時に、AI 関連発明を出願・権利化する「保護の主体」でもある。内製 AI の成果物（プロン

プト設計、エージェント構成、データ処理パイプライン) について、権利化と秘匿化のいずれを選ぶかが新たな論点となる。

- 特許出願動向：IP Force の集計（ランキング更新日 2025 年 5 月 14 日）によれば、オムロン株式会社の 2024 年の出願公開件数は 483 件（第 60 位）、特許取得件数は 573 件（第 41 位）である²⁰。ただし、本知財 AI エージェント自体に関する特許出願の有無は本調査では確認できていない。

7. 留意点・未検証事項

- 日経クロステック本文の有料会員部分は未取得であり、YAYAFa による無料部分の再掲を参照した¹。セキュリティ設定等の詳細は未検証である。
- 「ALBERT」の名称は AWS 公式ブログ²でのみ確認され、日経記事の無料範囲には現れない。本体登壇での公式表記および命名の由来は未確認である。
- 登壇者の本部名表記（ストラテジック R&D 本部／技術・知財本部）の差異は未確定である^{1,6}。
- 6 月 26 日の本体登壇の正式なセッション名・セッション ID・登壇形式は、公式資料で確定できていない。
- 来場者数は出典 URL 未取得のため未検証である。
- スペシャルセッションの登壇企業リストは、複数の二次レポートに基づく^{7,8,9,10}。
- 特許出願件数は二次データベースに基づく値であり、集計方法・更新日により変動しうる²⁰。
- 楠浦崇央氏の note 記事¹⁹はオムロンの知財×AI の取り組みを論じる二次資料であり、本報告では背景理解の参考にとどめた。

参考文献

(URL は 2026 年 9 月 2 日の調査時点。原記事 URL を取得できなかったものはその旨を記した。)

1. 日経クロステック「オムロンが Bedrock 活用で知財 AI エージェント内製、特許関連工数を 50%減」(連載「AWS Summit Japan で探る『AI エージェント』活用法」、2026 年 6 月)。原記事 URL は未取得。連載トップ：<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03664/> 無料部分の再掲 (YAYAFa)：<https://www.yayafa.com/2877676/>

2. Amazon Web Services Japan「AWS Summit Japan 2026 製造業向け展示の見どころ紹介！」AWS 公式ブログ、2026 年 6 月。<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/aws-summit-japan-2026-mfg-overview/>
3. Amazon Web Services「AWS Summit Japan 2026」公式イベントページ。<https://aws.amazon.com/jp/events/summits/japan>
4. 幕張メッセ「イベント詳細：AWS Summit Japan 2026」。<https://www.messe.co.jp/event/detail/8771>
5. 日経クロステック「AWS Summit Japan セッションの約半数が AI エージェント」2026 年 6 月。<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03664/062500001/>
6. 津田学・熊巳創・日下武紀「知財業務を革新するオムロンの知財 AI エージェント実装事例」AWS builders.flash、2025 年 11 月 4 日。<https://aws.amazon.com/jp/builders-flash/202511/omron-intellectual-property-ai-agent>
7. SCSK「AWS Summit Japan 2026 イベントレポート～AI エージェントは実用フェーズへ～」IT Platform Navigator、2026 年 7 月。https://www.scsk.jp/sp/itpnavi/article/2026/07/aws_summit_japan_2026.html
8. SpireX「AWS Summit Japan 2026 現地 2 日間参加レポート」Tech Note、2026 年 7 月 15 日。<https://www.spirex.co.jp/technote/entry/2026/07/15/143734>
9. Qiita「【行けない人向けにもまとめた】AWS Summit Japan 2026」2026 年。<https://qiita.com/similarmetal/items/6dd8231ef3dc1ff79fc0>
10. イベントマーケティング「AWS Summit Japan 2026」。<https://www.event-marketing.co.jp/schedule/aws-summit-japan-2026/>
11. NEC wisdom「オムロンが挑戦した新しい生成 AI 導入アプローチ」2025 年 2 月。<https://wisdom.nec.com/ja/feature/ai/2025021301/index.html>
12. オムロン「生成 AI 活用推進プロジェクト『AIZAQ』」EDGE&LINK。<https://www.omron.com/jp/ja/edge-link/news/717.html>
13. オムロン「OMRON TECHNICS 169 号」2025 年 5 月。<https://www.omron.com/jp/ja/technology/omrontechnics/169/>
14. オムロン「長期ビジョン Shaping the Future 2030」。<https://www.omron.com/jp/ja/vision/sf2030/>
15. IT Leaders「オムロン、PLC の設計コードを自然文の指示で生成する AI を開発」インプレス、2025 年。<https://it.impress.co.jp/articles/-/28751>
16. Laboro.AI プレスリリース「PLC 向け設計コード生成 AI」PR TIMES、2025 年。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000061.000027192.html>
17. MONOist「ファナックとフィジカル AI、現場主義の開発思想」2026 年 7 月 2 日。<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2607/02/news043.html>

18. ダイキン工業 ニュースリリース（設備故障診断 AI エージェントの試験運用開始、日立製作所との協創）2025 年 4 月 22 日。<https://www.daikin.co.jp/press/2025/20250422>
19. 楠浦崇央「オムロンの『知財×AI』への取り組み（１）」note。
<https://note.com/kusuura/n/nee8761637476>
20. IP Force「オムロン株式会社 特許出願公開一覧」。<https://ipforce.jp/applicant-663/publication>